

氏 名 内海 知子

授与した学位 博士

専門分野の名称 博士(保健学)

学位授与番号 甲第4797号

学位授与の日付 平成25年3月25日

学位授与の要件 保健学研究科 保健学専攻

(学位規則第5条第1項該当)

学位論文題目 ステージIで手術を受けた胃がん体験者が病気を受けとめるプロセス

論文審査委員 秋元 典子、猪下 光、近藤 真紀子

#### 学位論文内容の要旨

これまで、がん罹患に対する患者の心理的反応に着目した研究はみられるものの、初期のがんに焦点をあてた研究はほとんどみられない。そこで今回、ステージIという初期の病期で手術を受けた胃がん患者が病気を受けとめていくプロセスを明らかにすることを目的に研究を行った。手術後5年以内である27名の研究協力者から半構造化面接法によりデータ収集し、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて分析した。病気を受けとめるプロセスは、【がん診断により限定された生に直面】するが、『偶然戻った生に気づく』ことを経て、【取り戻せた生を生きる】への変化であった。そしてその変化には、【がん診断と手術により変化した生活の回復】と、【日常性の回復】による『初期のがんであったことの恩恵を受け取る』ことが必要であった。本研究の結果から、看護支援として、変化した生活の回復のための具体的方略の提示と、いつでもアクセスできる媒体による長期間に対応した内容の情報提供が求められていることが示唆された。

## 論文審査の結果の要旨

ステージⅠ（初期）胃がん患者が病気を受けとめるプロセスを明らかにした研究である。本研究がデータ分析手法として採用した修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチの提唱者である木下氏が強調している分析テーマの明確化がなされていないため、データのどの部分に注目して得られた分析結果であるのか、また明らかにしたいプロセスの始点がどこなのかが不明確であるという課題が指摘された。さらに、カテゴリー名が示している現象がわかりにくい、手術患者が対象であるが「手術」という出来事が結果図のどこに位置づくのか不明との指摘もあった。

しかし、早期がん患者に着目した研究が少ない現状にあって、早期のがん発見の恩恵に感謝して前向きに生きる患者の姿が浮き彫りになった。これにより、胃がん検診受診率向上を啓発するときのエビデンス、すなわち検診受診の意義の実例としても本研究結果を使うことができるという点で社会的意義のある研究と考える。

以上のことから、博士学位論文として適切であると判断した。